ISSN 0910−2396

野鳥だより
—北海道—

第 71 号
編集・発行　北海道野鳥愛護会
発行年月日　昭和63年 3 月21日

ギンザンマシコ　1987. 1. 5　札幌市白石水源池通り 撮影者　柳沢 千代子

もくじ

私の探鳥地(北大苫小牧演習林)………竹内　　強……2
琴似発寒川周辺の野鳥…………………三浦　和郎……3
珍鳥ニュース
　サンカノゴイ保護される…………掛川　岩太……6
　紋別港に飛来したヒメクビワカモメ
　…………大館　和広……7
　えりも岬でコケワタガモを観察
　…………井上　公雄……8
新年懇談会………………………………………6
探鳥会報告………………………………………9
鳥見行パズル……………………………………10
探鳥会案内………………………………………11
鳥民便り…………………………………………12

私の探鳥地　⑨

北大苫小牧演習林　竹内　　強

まだ鳥見（バードウオッチング）を始めて、2年ちょっという初心者（ビギナー）の私がこんな題で文章を書くこと自体がとても恥かしいことなのですが、初心者（ビギナー）には初心者（ビギナー）にしかわからない良さを持つ所がある、という思い込みにより、ずうずうしくもこの文章を書かせてもらいました。

初心者（ビギナー）の初心者（ビギナー）らしいところを考えてみると、その第一は分りやすい鳥でなくては分らないということ。その第二は誰でも見えるような所にいてくれないと困るということ。（その上、不精な私はあまり歩きたくない）そして、第三には、出来ればめったに見れない鳥が見たいということだと思います。

こんな難しい条件を満してくれるのが冬の北大苫小牧演習林です。（もちろん、ここは、春夏秋でも十分楽しめます。）

入口前の駐車場に車をおいて、入口から奥の樹冠観察塔まで歩けば十分に楽しめます。（距離にして800mくらい、これは不精者の私のためにあるようなコースです。）

餌台が林内のここそこにあり、それに集まるキツツキやカラ類、カケス等を待って観察すればよいのです。人間がそばに寄っていっても、あまり警戒せず、私のような初心者（ビギナー）でもその違いが分るほどじっくり観察出来ます。また、札幌より南にあるためか、越冬する種類が多いようです。（アオジ、カワラヒワ等）

キツツキ類、カラ類は行くと必ず見ることが出来る鳥ですが、ここの目玉は何と言ってもクマゲラです。ここくらいクマゲラを見る確率の高い所は他にないと思います。

ここにはクマゲラだけを目当てに来る人も少なくないようです。（一昨年行ったときは、「12時頃と2時頃クマゲラが餌台に来ますよ。」と親切におしえてくれました。昨年はクマゲラの警戒心も薄れたのか、もっと度々、姿を見せてくれました。）

500mmだの300mm×2だのという高いレンズを付けた高いカメラを持った人達が沢山いるときもあります。

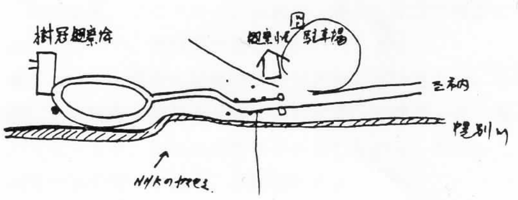
見慣れてくると餌台につくクマゲラでは物足りない感じがしてきます（なんと贅沢な話）が、ここでじっくり声や姿、しぐさ等を観察しておくと、他の場所でも見つけやすくなると思います。（実際に、私は岩見沢の利根別休養林で2回、野幌森林公園で3回出会ってます。）

特に「キョーン、キョーン」という鳴き声は一度聞いたら間違えることがないと思います。飛んでいるときも独特の声を出しながらやってくるので覚えやすいと思います。

また、ここは渡りや移動する鳥の経路として休息・採餌の場となっているようであり、ミヤマホオジロ（近年毎年飛来しています。）、オオマシコ（S.61）、オジロビタキ（S.60）等珍しい鳥に出会うこともあります。

初心者（ビギナー）の皆さん、是非一度探鳥してみて下さい。

（バス　苫小牧駅南口バスターミナルから市営バス、㊷演習林線北大演習林下車）



〒062　札幌市豊平区中の島2条8丁目
野本マンション18号

琴似発寒川周辺の野鳥

三　浦　和　郎

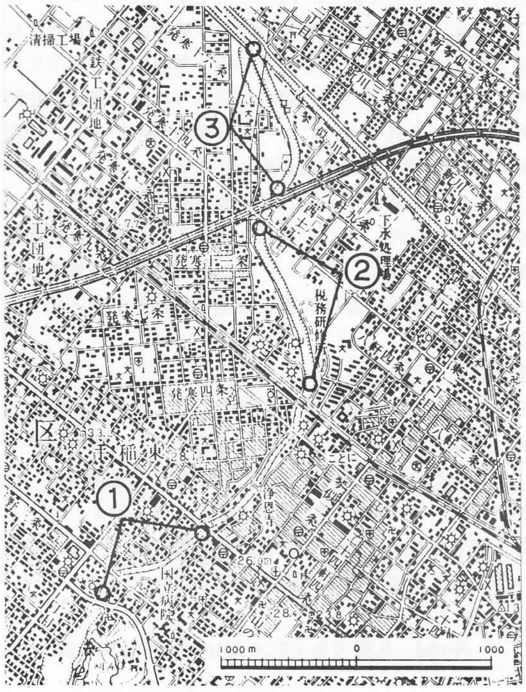
琴似発寒川は、手稲山（1024ｍ）に源を発し新川にそそぐ、流路延長16.6㎞、流域面積67.8㎢の河川である。札幌市西区に位置し、中、下流域は人口密集地を通過していることから、市民とのかかわりの深い河川でもある。

私は、昭和59年から62年まで西区八軒で生活したが、その間に行った観察結果に基づき、琴似発寒川周辺に生息する野鳥について報告することにした。

観察区間及び方法

観察の対象とした区間は、上流側が山の手橋から下流側が新川との合流点までである。この区間を、河川敷の利用形態、周辺の環境などの違いによりいくつかのタイプに分け、３つの調査区を設定した（図－１）。

調査区①は河川敷の利用が最も進んでいる区域である。テニスコート、ゲートボール場などが河川敷に配置され、自然植生はほとんどない（写真Ａ）。調査区②は右岸に農試公園が隣接し人の利用頻度は高いが、川岸にヤナギ林、堤防にオオイタドリ群落が分布している（写真Ｂ）。



図－１　観察区間位置図

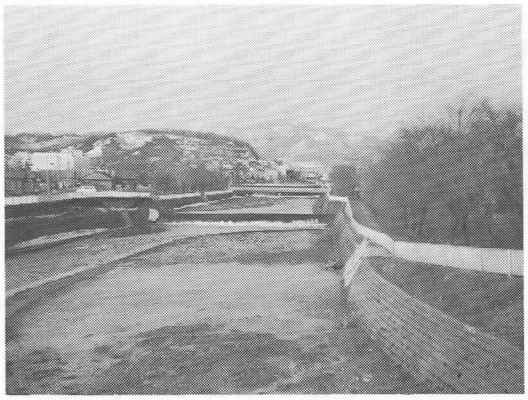


写真　Ａ

写真　Ｂ

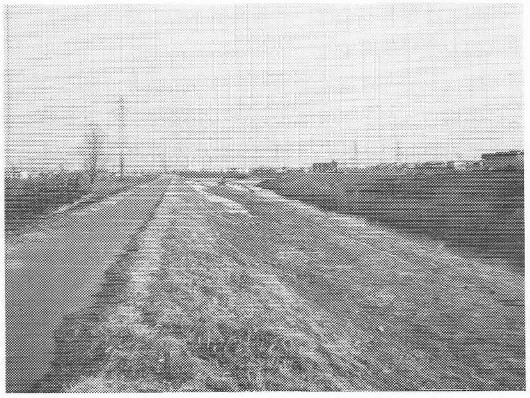


写真　Ｃ

調査区③は周辺に工場、資材置場、農耕地などがあり、最も人口密度の低い区域である。堤防がサイクリングコース、ジョギングコースとして利用されるほかは、河川敷に人が入ることは少ない。調査区②と同じくヤナギ林、オオイタドリ群落が分布している（写真C）。

昭和60年9月から62年5月までの間に48回の観察を行った。観察方法は、堤防を歩きながら出現する鳥類を河川敷、周辺域、上空を通過したものに分け記録した。

観察結果

48回の観察で21科42種が確認された。次頁（表－1）。観察区間は2万5千分の1地形図を4等分した時の「札幌」の左上、「札幌北部」の左下に該当し、その区分をあわせて表－1に示した。

これらの中で主要な種となっているのは、マガモ、イソシギ、ハクセキレイの水鳥もしくは水辺の鳥、キジバト、モズ、ツグミ、シジュウカラ、カワラヒワの疎林の鳥、ヒヨドリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバトの市街地の鳥である。これら14種は3つの調査区とも出現しており、琴似発寒川を代表する種といえる。

月別の出現種数及び繁殖期（4～7月）における調査区別の出現種数を示したのが図－2である。通年でみると、5月の繁殖最盛期には、9月の秋の渡りの時期にピークのある2山型のグラフになる。繁殖期には、調査区②、③で5月にピークがあるが、調査区①では平坦なグラフとなり種類数に変化がない。この時期調査区①に出現した種は、ハクセキレイ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバトなど市街地の鳥が主体となっている。これに対し、河川敷に自然植生の残っている調査区②ではヒバリ、ノビタキ、アオジ、さらに調査区③ではコヨシキリ、オオヨシキリ、ホオジロ、ホオアカなど草原性の鳥が出現しており、環境により生息種に違いがある。

河川とかかわりの深い水鳥及び水辺の鳥について、生息状況を概略説明する。

カモ類：マガモは周年を通じ、コガモは春の渡りの時期に観察された。下流域の新川天狗橋付近はカモ類の越冬地となっているが、観察区間は厳冬期に結氷部分が多いため、カモ類の集結地はみられない。

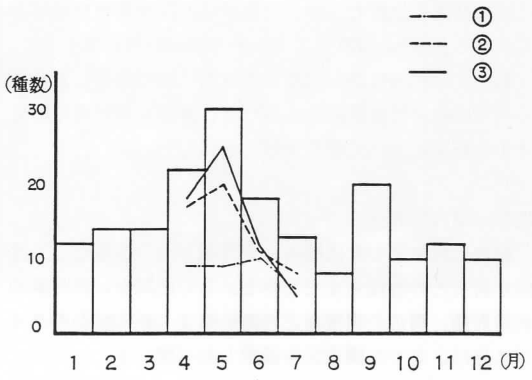
シギ類：イソシギは繁殖期、キアシシギは春の渡りの時期に観察された。このうちイソシギは開けた水面や川原に生息し、観察区間で繁殖しているものと思われる。

カワセミ：繁殖期前期に調査区②、③で観察されたが、繁殖しているかどうかは不明である。

セキレイ類：ハクセキレイは周年を通じ、キセキレイは春～秋に調査区①、②で数回観察された。ハクセキレイは観察区間で繁殖しているが、キセキレイは山の手橋より上流で繁殖しているものと思われる。

カワガラス：厳冬期に調査区①で観察されたが、春～秋には出現しない。

図－2　月別出現種数



都市河川の治水

都市を流れる河川は、まずその安全性を高めることが第1である。琴似発寒川では、昭和29年より流出土砂による河床の上昇を防ぐためのダム工事、流水を安全に流下させるための流路工事などの治水事業が進められ、ほぼ全線が改修されている。近年は、急激に進む都市化の中で自然に対する市民の関心が高まり、河川周辺の空間利用がはかられるようになった。琴似発寒川でも、昭和59年度より環境整備事業が行われている。

今回の調査結果から、わずかな環境の違いでそこに住む鳥が変化していることが明らかになったが、今後環境整備を進める上で、ちょっとした配慮や工夫を加えることで親水性や緑地空間の機能が高められるものと思う。

引用資料

1)　札幌と水　昭和58年　札幌市　さっぽろ文庫24
2)　地域の教材化（新川のガン・カモ科）　昭和59年　奥井則行　昭和59年度札幌市学校委託研究報告書
3)　Strix　日本野鳥の会研究報告　Vol　4，5
4)　扇状地の先行保全　昭和61年　橋田欣一　第18回砂防学会シンポジウム講演概要集

〒004　札幌市豊平区平岡10条2丁目14－24

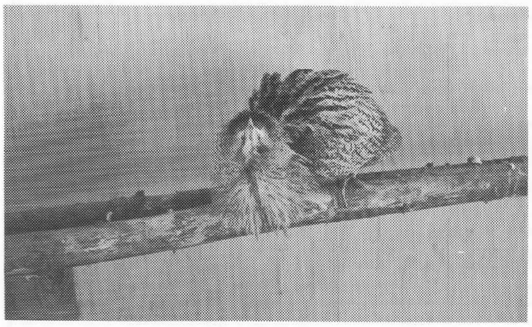
表－1　　琴似発寒川周辺野鳥リスト

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	「札幌」左 上	「札幌北部」左 下
ガンガモ	マガモ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
	コガモ				—										○
ワシタカ	トビ		—			—				—					○
ハヤブサ	チゴハヤブサ									—					○
シギ	キアシシギ					—									○
	イソシギ				—	—	—							○	○
	オオジシギ				—										○
ハト	キジバト				—	—	—	—	—	—				○	○
ホトトギス	カッコウ					—	—								○
カワセミ	カワセミ				—	—									○
キツツキ	アカゲラ	—	—											○	○
ヒバリ	ヒバリ				—	—	—								○
セキレイ	キセキレイ					—		—		—				○	○
	ハクセキレイ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
ヒヨドリ	ヒヨドリ	—	—	—	—	—	—					—	—	○	○
モズ	モズ					—	—	—	—	—				○	○
	アカモズ					—									○
レンジャク	キレンジャク			—	—	—								○	○
カワガラス	カワガラス	—	—	—										○	
ヒタキ	ノビタキ				—	—		—		—					○
	ツグミ	—	—	—	—	—				—	—	—	—	○	○
	コヨシキリ					—	—								○
	オオヨシキリ					—	—	—							○
	メボソムシクイ						—							○	○
	センダイムシクイ					—									○
シジュウカラ	ハシブトガラ											—			○
	ヒガラ				—	—				—					○
	シジュウカラ	—	—	—		—				—	—	—	—	○	○
ホオジロ	ホオジロ					—									○
	ホオアカ				—	—				—					○
	カシラダカ										—				○
	アオジ				—	—				—	—				○
アトリ	カワラヒワ		—	—	—	—	—	—		—		—		○	○
	ハギマシコ			—											○
	シメ				—					—					○
ハタオリドリ	スズメ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
ムクドリ	コムクドリ						—							○	○
	ムクドリ	—	—	—	—	—	—	—		—			—	○	○
カラス	カケス											—			○
	ハシボソガラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
	ハシブトガラス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
ハト	ドバト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○

珍鳥ニュース

サンカノゴイ保護される

鳥獣保護員　掛川岩太



62年10月25日午後1時30分頃、八雲町市街地より15km南方の落部漁港岸壁で魚箱の間に俯っていたサンカノゴイが保護された。

これは地元のドライブイン館の経営者館野高夫さんが、出前の入れ物をとりにいき、発見したもの。直ちに連絡を受けたので翌日現物確認をしたところ、サンカノゴイであることを確認したものである。

この鳥は昭和49年5月網走で確認されてから2例目であるとのこと。最初は餌をとらなかったが、水を入れた器に、チカを入れておいたところ数時間で喰べるようになり最近は1日25匹位喰べ元気になったようである。

最初は人が近づくと冠毛を逆立てうずくまり、頭部を地面につけ、尾羽を逆立てて、サッカーボールのようになる。うっかり手を出すと縮めていた首をさあーと延ばし嘴で飛び掛ってくる姿は勇壮である。

※翼長289.0mm，尾長89.0mm，嘴峰長58.1mm，体重697.6g

人がみていなければ嘴を真上に向け、首を真直上に伸ばし、夢想している感じである。大きさ、全体的感じより亜成鳥でないかと思われます。抱得された25日は前日より東の風10m位で海は大時化であり、どのような経路で葦もない、沼もない漁港にきたのか分りません。

現在では非常に元気になったので12月4日渡島支庁に引き渡し、函館市の公園で当分保護されることになっています。

昭和62年12月5日

〒049−31　山越郡八雲町末広町214

鳥見行パズル　　答（先に見ないでください）

■	6 ハ	10 ク	14 セ	16 キ	レ	22 イ	■
1 ミ	■	11 ヒ	イ	ナ	■	23 ワ	シ
2 コ	7 ケ	ワ	タ	■	19 カ	ツ	■
3 ア	リ	■	15 カ	17 ラ	ス	バ	26 ト
イ	■	12 タ	シ	ギ	■	24 メ	グ
4 サ	8 ギ	■	ギ	■	20 コ	■	ミ
■	9 ン	13 ク	■	18 ウ	ミ	25 ウ	■
5 カ	サ	サ	ギ	■	21 ミ	ソ	サ

残った文字：コトシモ　ガンバ

新年懇談会を開催

恒例の新年懇談会が、去る1月23日（土）に札幌市婦人文化センターで行われました。

当日は、昨年10月初めから11月初めにかけて約1ケ月間スウェーデン、スイス、オーストリア、オランダ、イギリスの5か国の自然公園等を視察してきた道職員で本会幹事の村野紀雄氏から、スライド多数を使用しながら、現地の状況等について話しがありました。歴史の古いヨーロッパにおける公園管理状況や野鳥観察小屋のこと等を知ることができ、大変参考になりました。

その後、会員の持参したスライドの映写があり、終了いたしました。

紋別港に飛来したヒメクビワカモメ

もんべつ　かいはつ　くらぶ
大館 和広

1987年12月19日から12月29日までの間、オホーツク海に面した紋別市紋別港で、ヒメクビワカモメを観察した。本種は日本でこれまでに1974年１月、1984年１月にいずれも斜里町での観察記録があるにすぎない。本種は東シベリア海に面したシベリア東北部のごく一部のツンドラ地帯で繁殖する小形のカモメである。北極海沿岸やベーリング海で夏季や越冬中のものが見られる程度の非常にまれな種であるらしく、一般習性すらほとんど知られていない。

筆者がヒメクビワカモメを観察したのは、12月19日、同20日、同22日、同24日、同26日、同29日の６回であったが、12月30日にも福岡研也氏（札幌市）大塚恭司氏（紋別市）によって観察されている。筆者は12月18日も紋別港で鳥類の観察を行なったがヒメクビワカモメは観察できなかった。18日は前日の荒天の影響で海上は波が非常に高く、岸壁にも波が打ち上っていた。その後12月31日、１月１日、１月２日、１月10日と同港で鳥類の観察を行なったがヒメクビワカモメは観察できなかった。紋別地方は30日から31日にかけて、強風と降雪の荒天だった。

19日はヒメクビワカモメを２羽観察した。うち一羽は第１回冬羽の若鳥で、以後も観察できた個体であると思われるが、もう一羽についてははっきりわからない（２羽が観察できたのは数分であった）。岸壁で釣りをしていた人の話によると、一羽が釣糸にひっかかったがすぐにはずれたといい、２羽飛んでいたと言っていた。ヒメクビワカモメは人を怖れず、近くを飛行していたのでよく観察する事ができた。

観察していて気のついた事は、第一にその大きさである。他のカモメ類を見なれていると非常に小さいという印象を受ける。そして飛び方は、ヒラヒラとアジサシの様であった。飛行中の姿は尾が長く、著しくくさび形であった。尾羽は白く両端の２枚を除いて（外側から２枚目は半分から内側が）先端が黒かった。背面は美しい淡青灰色でありM字形の黒帯がはっきりと認められた。羽の裏側は灰色だった。頭頂から背面にかけても淡青灰色だった。目先に黒い部分があり、耳羽も少し黒かった。くちばしも黒かった。足の色は光線状態によっては赤黒く見えたが、ほとんどの時は黒く見えた。腹は白かった。

この個体は負傷していた。22日岸壁に降りている時に観察した。負傷している場所はくわしくはわからないが、尾羽の付け根の下部だろうと思われる。周囲の羽がかなり汚れており、赤い部分（肉の部分？）も見えた。この個体は傷をくちばしでさかんに触れていた。

ヒメクビワカモメは、紋別港第一埠頭付近と、そこに流れ込む巾10m位の川の上空を、反復して飛行していた。時々水面に下降し、水面には降りずに（足はつけていた）採餌していた。水面に浮かぶのは一度も観察できなかったが地上に降りたところは何度か観察した。岸壁のコンクリート上、雪上に降りたが、近くの倉庫のトタン屋根（赤色）の上にも降りてしばらくとまっていた。

地上に降りていた時、車が近くを通り過ぎるのは平気であったが、人間が10m内に接近すると飛び立った。

この時期，紋別港内はまだ結氷しておらず、付近の海上にも海氷は見られなかった。12月下旬の流氷の南端はサハリン南部であった。前２回の斜里町への飛来はいずれも海氷期であり、海氷が本種の飛来に深く関係していたと思われるが、今回の紋別港への飛来は海氷との関係を直接にはみとめられないと思うので興味深い。

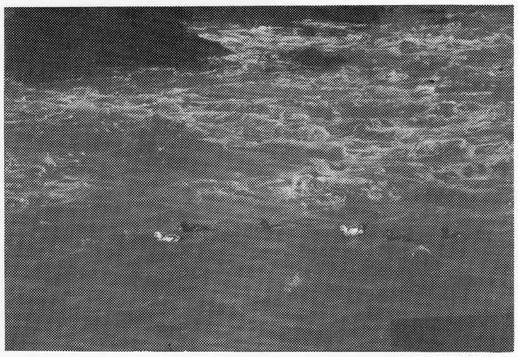
〒094　紋別市花園町３丁目

えりも岬でコケワタガモを観察

国内では、根室市納沙布岬が、コケワタガモの唯一の観察場所として今年も姿を見せ始めたと、昨年12月11日の朝日新聞は報じた。12月13日小樽での探鳥会の際、会員の大野信明氏から昨12日、日高えりも岬でコケワタガモが観察されたとの報告が話題になり、日帰り可能なえりも岬で（往復約500km）コケワタガモが観察出来ると云うことから柳沢副会長ご夫妻、羽田恭子氏他計12名で12月20日早朝、えりも岬に向いました。

折しも此の時季としては稀な快晴温暖無風、海上も穏やかと好条件に恵まれ、現地到着間もなく岬東側高台沿岸から約200m位沖合の岩礁脇の海上に漂っている白いものを発見、一斉にプロミナを向けて覗いてみると紛れもないオス２羽メス１羽のコケワタガモであることが判りました。案内役の第１発見者である大野氏を始め全員が跳び上って歓声を上げました。これ迄のコケワタガモ観察の記録から、根室半島沿岸以外での記録は極めて少く、今回のえりも岬では、複数（オス２メス１）の同一個体（状況から推測）が年末まで何回も観察され、更に１月24日には佐藤幸典・山田良造両氏の観察（写真撮影）によるとオス２羽、メス10羽が確認されました。以後２月７日大野信明・田中金作氏ご夫妻が、また２月14日福岡研也氏が行った時には１羽も確認出来なかった。いつ何処へ移動したものか不明であるが、何れにしても12月12日から翌月24日迄の滞在は確認された訳でこれまでの記録の概念を越え、根室半島以南での新しい複数での滞在記録になるだろうと思う。

コケワタガモは、全長約45.5cm、雄は頭から頸側は絹の様な光沢のある白色、目の前方が淡緑色、後頭部がこぶ状の淡緑色の羽、囲眼部・喉から下頸・背中央・体後部・尾は黒色、肩は白色、上背部は白黒のコントラストが美しい。側腹部は白く、下腹中央に向ってオレンジ色、胸側に黒色の円斑が一つある。雌は全体赤褐色で黒褐色の斑点がある。６月下旬～７月、シベリヤ東部・北極海沿岸・セントローレンス島・アラスカ北岸・ベーリング海沿岸のツンドラの水辺の低地の草やコケの繁るところに営巣。カモメなどの被害が多く生存率は低い。

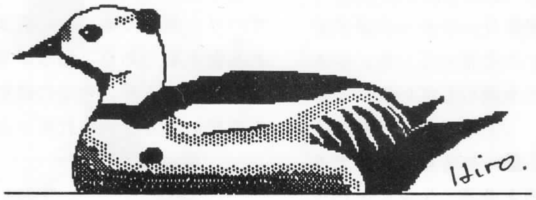


撮　影　　佐藤 幸典

冬期は沿岸より波の荒い沖合に群れ、島々の周辺に生息。甲殻類とくに端脚類を好み、軟体動物・魚卵など約60％に、海藻などを混食。アリューシャン・ベーリング海のコマンドル諸島・カムチャッカ沿岸で越冬する。

記　録　1964年　宮城県松島湾（標本）
　　　　年月不詳　留萌
　　　　根室半島沿岸　納沙布岬　少数　毎冬か？
資　料　関係図書　実観察者談　他

探鳥幹事　井上 公雄　記



小　樽　62. 12. 13　霜中　愛子

厳しい冬の訪れが近づくと共に、越冬する海鳥が翼を休めに、小樽港に集まってきます。

探鳥に適した時期になり、天候にも恵まれて、冬の海へ一年振りの訪れとなりました。日、時によって思いがけない野鳥との出会いを楽しみに参加致しました。

祝津では早々にハヤブサが、悠々と舞い上っている姿を見ることができました。

海から吹きあがる風の中で、ウミウ・ヒメウを見つけました。沖の方にいる鳥影は遠くて、一向に確認できずに寒々とした海上を眺めておりました時、ウミスズメの群れが、白く砕ける波間をすれすれに、力強く羽ばたき飛翔する時、体の下面部分が明るく映えて美しく印象的でした。

岩場近くでシノリガモが、うねりに乗り波が砕ける寸前にサ、と潜り、瞬間、波はガケ裾に白く砕ける中、浮き沈みする様子は可愛らしく、飽きる事なく見入ってしまいました。祝津漁港でも波打際に、カラフルな色彩でゆったり漂うシノリガモの群れを間近にみられ、やはり参加して良かったと思い大満足です。シロカモメがヒトデをくわえて横取りされまいと飛び回る姿は滑稽でした。

埠頭では鮮やかなオレンヂ色に嘴を染めたクロガモの群れが、優しく一羽の雌を囲んで泳いでいました。時折り雌の方に振り返り、何か会話を交わしているような情景に、無事に厳冬を乗り越えてほしいと見つめていました。トレードマークを頬に付けた、ホオジロガモは、右、左と波間に漂っているかと思うと、見事なチームワークで一斉に潜水、又揃ってポコッ、ポコッと浮く姿に「漁はあったかしら」と楽しい思いに浸っていました。

ケイマフリを始めて見ました。レンズに入った鳥に夏羽と冬羽が、こんなに変化するのかと驚きました。ケイマフリは五年振りの発見と知り、一層、初めて観た時の瞬間の喜びに感動します。

珍しい事に、岸壁の上にヒメウが一羽、どこか傷を負っているのでないかと思う程、大勢の方に囲まれても、人を怖れる様子もなく、しばし人と鳥との交流している場面になりました。

今一つ目を疑う現象が現われました。水平線の上に白い煙を立てた煙突を中にして高い建物が並ぶ街が、幻の様に浮かんで見えました。蜃気楼とわかり不思議な思いで眺めておりました。探鳥会に思いがけぬ大付録になりました。

海鳥たちは、この地で厳しい冬をすごします。

もちろんこれらの鳥は故郷のシベリアやアラスカ等に比べれば、はるかに過ごしやすいのでしょう……。

でも必ずしも豊富なエサがあるとは限りません。

飢えと寒さをしのぎながら安全なこの小樽の港で、春近くまで滞在してくれるでしょう。

季節の移り変わりを伝えてくれる海鳥たち！

今日の探鳥会を通してこの鳥たちの生きていくたくましい姿にあらためて感動するとともに、自然と人間とのかかわりあいを大切にしたいと思います。

〔記録された鳥〕アビ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、アカエリカイツブリ、クロガモ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ウミウ、ヒメウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、セグロカモメ、シロカモメ、ワシカモメ、カモメ、ウミガラス、ケイマフリ、ウミスズメ、ウミバト、ハヤブサ、ドバト、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス　以上26種

〔野鳥の会小樽支部参加者〕亀尾、松山、後藤ひろみ、西岡、茂木、清田、霜中愛子、富樫、野沢、中野高明、中野（由）、高橋、鎌田、鍋島、清江、菊池、沢山、竹内、津田、雨夜、藤井、渡辺俊夫　22名

〔野鳥愛護会参加者〕矢野昭二・玲子、竹内　強、小堀煌治、大坊幸七、戸津高保・以知子、難波茂雄、金上由紀、柳沢信雄・千代子、小林美智子、工藤敬子、綿谷千冬、逸見康夫、武沢和義・佐知子、堀内　進、霜村耕一・佳代子・耕太、羽田恭子、渡辺加奈子、荒川真須美、大町欽子、田辺　至、水嶋貴広、谷口一芳・登志、松井昌、玉井龍男・繁美、佐久間典子、坪井光子、佐々木武巳、大野信明、豊口　肇・美代子、松本紀代恵、虻川摩美、石井良和、大浦美佐子、霜村耕介、浪田良三、田中礼子、杉田範男、西川喜久世、五十嵐優幸、三浦美重子、後藤礼子、井上公雄　51名

〔担当幹事〕中野高明、渡辺俊夫

〒047　小樽市長橋３丁目１の19

藤　の　沢　　　　63. 1. 24

〔記録された鳥〕ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、キレンジャク、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス　以上13種

〔参加者〕綿谷千冬、西川喜久世、小林美智子、玉井龍男・繁美、柳沢信雄・千代子、今野　弘、犬飼　弘、小堀煌治、清水朋子、谷口一芳・登志、曽根モト、佐々木武巳、田中礼子、国本昌秀、渡辺照彦、大野信明、霜村耕一・佳代子・耕太、戸津高保・以知子、竹内　強、道川冨美子、伊藤吉雄、豊口　肇・美代子、堀内　進、野口正男、大坊幸七、井上公雄、武沢佐知子、大町欽子、田中じゅん子、渡辺加奈子、渡辺紀久雄・久美子・千鶴、金上由紀・倫子、富川徹・明美　以上44名

〔担当幹事〕戸津高保、竹内　強、道川冨美子

豚汁はおいしかったし、クイズはおもしろかったし。

撮影　　竹内　強

鳥見行（トリミング）パズル

藤の沢探鳥会で出題されたパズルです。今年も竹内強さんの労作です。どちらも15分で解ければ、もうベテラン。

クロスワード

横のカギ

2　雄は白い体に帽子を被ってます。近年、ノサップ岬で…。○○○○ガモ。

3　クィクィクィ…。なぜか、キツツキの仲間です。○○スイ。

4　頭がオレンジ色。アマ○○。

5　佐賀平野を中心とした北九州地方に留鳥。カラスの仲間。

6　顔が黒いのにセグロナントカといいます。顔の白いのは○○○○○○。

9　キ○メフ○ロウ。

11　別名、嫁起し。○ク○○。

12　翼の後縁や下雨覆に白色があることによって見分けます。

15　黒い体が特徴なのでしょう。カァーとは鳴かないようです。

18　長良川の鮎取り名人。

19　大好物（？）が名前についています。○○オドリ。

21　コブシのきいた歌っぷりは都はるみのよう。年は33歳。○○○ザイ。

23　魚を食べる空の王者。肩と尾の白さが決め手。オオ○○。

24　小笠原諸島の母島に留鳥。目は白くありません。○○ロのサンマで有名。

■	6	10	14	16		22	■
1	■	11			■	23	
2	7			■	19		■
3		■	15	17			26
	■	12			■	24	
4	8	■		■	20	■	
■	9	13	■	18		25	■
5				■	21		

縦のカギ

1　だんなさんはパンダさん。奥さんは茶色の帽子。

7　チドリの仲間では大型。田んぼにいる方は長い冠羽が立派。○○。

8　普通は大雪山にいるそうです。○○○゛ンマシコ。

10　ヒメ○○゛○カモメ。寒い北の海が大好き。

13　体の上面が黒っぽく、眉斑は短く目の上まで、飛翔時は翼の下面が黒っぽい。○○シギ。

14　足が赤く長く、よく長身といわれます。

16　○マユツメ○ガセキレイ。

17　カ○シラサ○。

19　北海道のは頭が黄褐色で目はブドウ色。○ケ○。

20　草原のフクロウ。耳羽はほとんど見えない。○○○ズク。

22　札幌でツバメといえばこれのこと。

25　本当の事を言っても信じてもらえない。

26　○ラツ○○。ヌエの正体。

（答えは6Ｐ．にあります）

シークワーズ

次のスクエアの中から鳥の名前を全て探して囲んでしまいましょう。タテヨコナナメ、上からでも下からでも一直線上に読めれば囲みます。残った文字を並べると何と言う言葉になるでしょう。

ン	ガ	ラ	カ	ウ	ユ	ジ	シ
リ	ル	オ	オ	メ	ソ	コ	マ
カ	ル	ガ	モ	モ	ト	ウ	ア
メ	タ	カ	シ	カ	シ	ト	オ
バ	シ	マ	フ	ク	ロ	ウ	ジ
ツ	ゴ	モ	ク	ゾ	リ	ル	コ
マ	ヒ	ワ	ン	ウ	ト	カ	ガ
ア	カ	モ	ズ	ト	ア	イ	バ

〔野幌森林公園〕
昭和63年5月8日（日）

野鳥への関心の高まりをみせる愛鳥週間が始ります。

美しい鳴き声に誘われ、その姿を覗いてみたくなり、出掛けるには最も良い季節です。北上を続け渡って来た夏鳥たちも姿を揃え、旅の疲れを癒す暇もなく縄張り宣言に精一杯の美声を競い巣造りをはじめます。新芽が膨みはじめた林の中は、様々な鳥たちのドラマの展開に探鳥の楽しさを味わらせてくれることでしょう。

午前9時　大沢駐車場入口集合

〔植苗ウトナイ〕　昭和63年6月12日（日）

植苗駅前をスタート。林界の鳥を観察しながら林を通り抜け草原に入ります。目の前に広がる草原にはシマアオジ・ノビタキ・オオジュリン・ノゴマ、そしてコヨシキリの懸命に囀る姿を求め、草原の探鳥ははじまります。美しさに眼を見張るシマアオジ。喉もとの鮮やかな紅に凛々しい姿のノゴマを見つけたら、探鳥の虜になってしまいます。ウトナイ湖に浮ぶコブハクチョウの親子・子育て中のカモ類の家族連には思わず頬笑みがこぼれます。初夏のさわやかな一日を植苗で過すと忘れられない思い出になるでしょう。

午前9時10分　JR千歳線植苗駅前集合

〔東米里〕　昭和63年6月19日（日）

開発の手がのびる郊外ですが、まだ草原の鳥が訪れる東米里です。次第に狭められていく自然を惜しむ様にノビタキ・オオジュリン・ホオアカ・アカモズ・コヨシキリ・オオヨシキリ・マキノセンニュウ、なかなかお眼にかかれなくなったカッコウも此処では見られ、運が良ければキジの散歩に出遭うこともあります。

午前9時　市営バス米里線東米里小学校前停留所集合

〔平和の滝　夜の探鳥会〕　昭和63年6月25日（土）

夕陽が西へ沈む頃最後の囀りを聴せる、キビタキ・アカハラ・アオジ。夕暮れの中、キヨロンチイーとマミジロの淋しげな声。やがて夕暗の中から、キョッ・キョッ・キョッとヨタカが鳴き始め、コノハズク（声の仏法僧）の神秘的な鳴き声が今日最大の目当てです。暗い夜道に突然ヨタカが飛び出すハプニングもあり趣きの異った夜の探鳥はいかがでしょう。

午後6時30分　平和の滝駐車場集合

市営バス西野平和線　平和の滝入口下車徒歩20分

〔福　移〕　昭和63年7月3日（日）

豊平川が石狩川へ合流する辺りが探鳥地です。河川敷の整備が進み野鳥の生息環境の悪化があんじられます。

草原性の鳥の観察が主体になります。昨年は、ノゴマ・シマアオジ・ノビタキ・カワセミを始め此処以外では記録の少いウズラの姿も見届けられ32種を記録、参加を楽しませました。

午前8時30分　市営バス札苗線福移入口停車所集合

〔千歳川周辺一泊早朝探鳥会〕

年に一度の一泊早朝探鳥会です。ジンギスカン鍋を囲んでの探鳥談義も和やかなもので人々との親睦交流の深まりは、探鳥の楽しさを一層大きなものにしてくれます。この探鳥会は、最も多くの種類に出遭うと共にカワセミ・ヤマセミ・アカショウビンと云った人気鳥が殆ど毎回記録されています。森林・草原・渓流と観察範囲も広く、昨年はコノハズクの鳴き声も聴かれ57種を記録しています。

1. 日　時　昭和63年5月14（土）午後7時より
   15日（日）午前4時から探鳥開始。午前中解散予定。
2. 場　所　サンポートガーデン
   千歳市蘭越町5番地　電話　01232－3－3741
3. 会　費　2,000円　夕食付（ジンギス汗鍋）
   朝食は各自持参

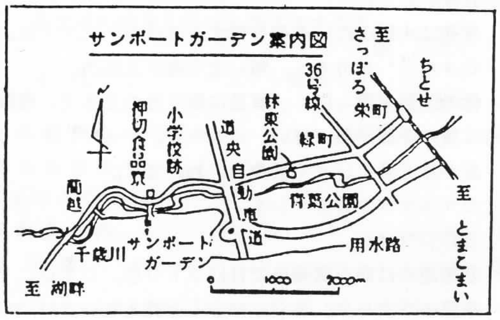
※　宿泊設備がないため（畳の部屋はあります）寝袋などご用意下さい。

※　自家用車の方は直接サンポートガーデン集合（駐車場あり）

列車・バスの方は午後6時30分 JR 千歳駅待合室集合。駅から現地までタクシーを利用します。

※　参加申込　4月と5月の野幌森林公園探鳥会の折受付ます。

電話の場合は5月13日迄に 011－551－6321 井上まで



〔野幌森林公園を歩きましょう〕

昭和63年5月22日（日）、6月5日（日）、7月10日（日）

午前9時　大沢駐車場入口集合

いづれの探鳥会も暴風雨でない限り行います。昼食、筆記用具、観察用具をご用意下さい。

探鳥会のお問合せは井上 011－551－6321

◆63年度写真展のお知らせ

63年度においても、野鳥写真展を開催いたしますので振ってご応募ください。提供された写真については、野鳥だよりの表紙や紙上写真展として掲載の予定ですので、力作を期待しております。

〈応募要領〉

◎ テーマ　野鳥とします。
◎ サイズ　四ツ切以上で1人2点まで
◎ 〆切り　4月23日（土）まで
◎ **送付先　〒060　札幌市中央区南6条西11丁目**
  共済ハウス　井上公雄
◎ 展示場所と期間
  ●たくぎん本店地下キャッシュサービスコーナー
  （札幌市中央区大通西3丁目）5/2～5/16
  ●三菱信託銀行札幌支店（札幌市中央区北4条西4丁目）5/17 ～ 5/28
◎ 展示後　額縁をつけてお返しします。

◆総会のご案内

昭和63年度の総会を下記のとおり開催いたしますのでご参加下さるようご案内します。

日　時　昭和63年4月16日（土）午後2時～
場　所　札幌市民会館6号会議室
（札幌市中央区北1条西1丁目）
内　容　昭和62年度事業経過報告
昭和63年度事業計画

◆移転のお知らせ

北海道自然保護協会の移転に伴い、北海道野鳥愛護会事務所が変ります。4月15日の予定です。

移転先　〒060　札幌市中央区北3条西11丁目
第5加森ビル6Ｆ

◆お詫び

70号9頁、コウノトリの写真は、勝又　孝氏の撮影によるものです。掲載漏れをお詫びいたします。

◆アンケート調査にご協力ありがとうございました。予想以上に幅広い意見をお寄せいただき、広報部一同、喜んでおります。何らかの形でまとめたものを、次号から掲載する予定ですので、ご期待ください。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円　（会計年度4月より）　郵便振替 小樽 1 － 18287
〒060　札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル5階　北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465